

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立新居浜工業高等学校
学校番号(7)

評価実施日	令和6年2月14日(水)		
委員	氏名	所属等	備考
	中川 文生	学校評議員	
	平田 利實	学校評議員	
	久保 弥生	学校評議員	
	加藤 啓子	学校評議員	
	神野 恵介	学校評議員	
	藤田 秀喜	新居浜市青少年センター所長	
	今井 基博	新居浜市少年補導委員協議会会長	
	加地 和広	新居浜市経済部産業振興課長	
	村上 亘	P T A会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>(1) 教育目標</p> <p>「ものづくりを通じた〇〇づくり」というのは、工業高校として生徒や保護者、地域からも納得のいく分かりやすい目標である。今後も地域に貢献していく人材育成に尽力していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none">・今後とも「ものづくり教育」と「こころの教育」を通して、生徒に充実感や達成感を味わわせる活動を推進し、人材の育成に力を入れていきたい。重点努力目標は毎年見直しを行っており、来年度案の立案時に検討したい。評価の下降については生徒の現状に合わせたものと理解するが、適切な対応策を臨機応変に実施する。
<p>(2) 学習指導</p> <p>授業評価アンケートの結果は良好であり、先生方は授業の充実に向けて熱心に取り組んでいることがうかがえた。一方、テスト中の家庭学習時間が年々減少しており、基礎学力の定着が不十分な生徒の実態もうかがえた。</p> <p>次年度の改善方針に書かれた指導を粘り強く実践していただきたい。1人1台端末、電子黒板、ホワイトボードの活用、観点別評価など、授業や評価の在り方が激動している状況だと思うが、今後も授業改善に尽力していただきたい。</p> <p>基礎学力の向上には、家庭学習の習慣付けが重要であるが生徒の中には、習慣がついていない人が少なからずいる。ICTを活用する宿題も検討してはどうでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none">・校内で実施した生徒対象の授業評価アンケート結果では、本校の授業は生徒にとっておおむね「良い」授業であるものの、生徒の学力向上(特に基礎学力)は、本校の学習指導における第一の課題と考えている。本校生徒は家庭学習習慣が十分には身に付いていないことから、基礎学力の定着は不十分であると言わざるを得ない。・学習指導について、次年度以降は家庭での学習習慣をいかに定着させるかポイントになる。現在は、各教科主導で実施している家庭学習課題であるが、本件改善のためには学校全体として取り組む必要があるため、学習指導委員会等で各教科の「適切な課題設定」の提案・検討・実施から始めたいと考えている。また、

	<p>学校だけではなく、家庭と協力して家庭学習環境を整備することも重要であり、ICT機器（生徒個人端末）を活用した課題配信・提出なども、その具体的手段の一つとなり得ると考える。</p>
<p>(3) 学校経営</p> <p>ホームページや保護者へのメール配信（登録率97%）、公式ツイッターの開設など、学校からの情報発信は非常に充実しておりすばらしい。地域との連携活動や地域からの情報獲得についても改善・充実しているように思う。自己評価Aは妥当だと思う。</p> <p>図書について保護者の評価が低いのは、我が子が家庭で読書を楽しんでいる様子を見るのが少ないのだろう。親の方もスマホ時代に流され、本を読まないのではないだろうか。図書館だよりなどを使って家庭での読書を勧め、親にも本を読むことを勧めてはどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学校行事や部活動、企業見学や検定など学習に関する取組など、生徒の様々な活動の様子を伝えるように努めていきたい。 ・図書館だよりに関しては、生徒や教職員に向けての発行としておりましたが、来年度はマチコミ等での配信を検討し、御家庭の中で読書をする雰囲気を作れるように取り組んでいきたい。
<p>(4) 工業教育</p> <p>アンケートの評価も各種大会の結果も評価Aにふさわしい立派なものである。資格や検定の取得は即戦力の人材育成だけではなく、生徒の自信や自己有用感の向上につながると思う。</p> <p>ジュニアマイスターについての数値目標は具体的で、生徒にとってレベルの高いものだと思うが、今後も難しいことにチャレンジしていく生徒が増えていくことを期待している。</p> <p>実践的技術者を育てる工業高校としては、是非ともその面の量的拡大を図るよう努力していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症も5類に移行され、フルスペックで新工マイスタープロジェクトを推進し、工業教育に関する多くの事業で成果を上げた。特に各種競技会等への参加では、生徒・学校・家庭・地域が連携・協働した取組で、5学科それぞれで四国・全国大会で活躍する成果を上げた。今後も生徒が活躍できる機会を増やし、成功体験を通じて自己有用感・肯定感を養わせ、「成果から伝統へ」と挑戦していきたい。 ・各種資格検定取得では、2名のジュニアマイスター顕彰特別表彰受賞者を輩出できた。関係団体の御協力により、難関資格取得に向けた環境整備の成果である。来年度も難関資格へチャレンジする機運の醸成を図り、今回の環境整備に倣って更なる難関資格取得のための環境整備に努めたい。 ・来年度も本プロジェクトを推進し、地域産業界・地元企業と連携・協働して、地元産業を支える次世代を担うものづくり人材の育成に尽力したい。

<p>(5) ICT環境</p> <p>「現状維持は衰退」と言う言葉があるが、ICT教育推進について、腰の重い教職員に対しても分かりやすく具体的事例を示すなどして、指導力向上にもつながっていることが実感できる。今後も尽力していただきたい。貴校の教育情報環境は充実しており、成果も上がっている。自己評価A、Bは妥当だと思う。</p> <p>保護者の「よく当てはまる」の評価が、他と比べて低い。学校ではやっているが、家庭ではそれが見られないのかもしれない。ICT教育はもっと促進すべきで、生徒が興味を持つなら、宿題や家庭での学習まで拡充してはどうでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の相互授業参観の期間を利用するなどして、ICTを活用した授業への取組や、教材研究・意識向上に努める。 ・ICTを利用した授業が一時的なものとならないように、授業での一人一台端末の活用や家庭学習における課題配布や提出を定期的に行うように、授業計画を立てるように努める。
<p>(6) 特別活動</p> <p>ボランティア活動等の交流体験活動に自主的意欲的に取り組むように御指導なさを望みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動においても、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制約されていた活動が通常に戻りつつあり、生徒会や部の活動等で関わるが多くなってきた。更なる意欲的な活動を期待したい。
<p>(7) 生徒指導</p> <p>西条市で自転車の女子高校生が死亡する事故があったが、逆に加害者になる場合もある。施錠やヘルメット着用も併せて自転車のマナー指導を徹底していただきたい。例え少数であっても規範意識の低い生徒が周りに与える悪影響は大きく、その指導は困難であり時間もかかると思う。自己評価Cはやむを得ないが、今後とも粘り強く尽力していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ことあるごとに生徒に呼び掛けを行い、粘り強く指導していくしかない。また、生徒会や生活委員長などが全校生徒に呼び掛ける機会を設け、生徒自身の発信で規範意識の徹底や交通マナーを守ることができるように意識付けていくことも大切だと思っている。
<p>(8) 教育相談</p> <p>特別支援教育については、次年度の改善方策にあるように該当生徒一人一人に応じた配慮が必要であり、それを全教職員が具体的に把握できている事が大切である。状況の厳しさから、二つの具体的目標が共に自己評価Cとなっているのだと思うが、今後も生徒が気軽に相談できる体制の充実に努め、粘り強く尽力していただきたい。</p> <p>生徒や保護者への相談活動で、成果や効果を上げることはなかなか難しいが、ICTを活用した相談活動も検討されることを望みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題等対策委員会においても同様な提案のあった「ICTを活用した相談窓口」について、生徒1人1台端末を使った、24時間書込みできる相談フォームの開設を研究しており、来年度より施行する予定となっている。また、「開設しただけ」にとどまることのないように、生徒に対して随時告知を行うことも考えている。 <p>なお、「特別支援教育」に関しては、全校体制で様々な対応を行っているため、評価をBに変更した。</p>

<p>(9) 人権・同和教育</p> <p>重大ないじめ事案が発生してしまったのは残念である。いつでも誰でもいじめの被害者・加害者になり得るという前提で、生徒には人権尊重の啓蒙を何度も繰り返して行わねばならないと強く感じた。なぜ未然防止や早期発見に至らなかったのかを省察して、今後の指導に尽力していただきたい。</p> <p>重大ないじめ事案が1学期から2学期にかけて発生したということであるが、いじめアンケートや普段からの生徒とのコミュニケーション、巡視等を駆使して、是非とも早期発見、早期解決に努めていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題に関する重大な案件が発生したことに関して、被害者生徒に対して辛い思いをさせたことについて申し訳ない思いでいっぱいである。御指摘のとおり、「未然防止」「早期発見」「校内巡視」という点において人権・同和教育課では「未然防止」について強化を図っていきたい。 ・人権・同和教育ホームルーム活動では、1年次に身近な人権問題としていじめ問題を取り上げている。仲間づくりや人を思いやり、尊敬するところを育てるための学習活動を行っているが、生徒の興味・関心に深く入り込み、他人事ではなく我が事として思考・行動できる活動を実践していきたい。
<p>(10) 進路指導</p> <p>進路指導状況について、離職率を見ると令和3年度卒業生の1年目の離職率が4%と全国と比較しミスマッチが少なく適切な相談対応や指導をされていると推察いたします。ただ、令和元年度卒業生の3年目離職率が全国平均より低い数値となっています。25.4%と平成30年度卒業生と比較すると約10%多くなっておりますが、要因分析などをされていれば、内容を御教示ください。</p> <p>離職した卒業生から就職先に関する相談の有無や相談窓口の設置など相談体制について要望等がございましたら御教示ください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年目の離職率が増加した要因について2点挙げられる。 1点目は、大手企業の中途採用である。現在就労している職場より条件の良い職場への転職が大きな要因であると考えます。 2点目は、新型コロナウイルス感染症の影響である。出社困難な状況の企業も多くあり、就業意欲が減退したことによって退職に至ったケースもあると思われる。 ・離職した卒業生からの相談については、該当の卒業生が来校した際には相談に乗っている。
<p>(11) 学校安全</p> <p>清潔で安全・安心な教育環境が維持できており自己評価Aは妥当だと思う。毎年のように甚大な災害が発生しているが、南海トラフの巨大地震では新居浜市も想定震源域に含まれている。生徒の危機意識の向上とリアリティーのある訓練の実施等に今後も尽力していただきたい。</p> <p>学校と地域が連携して防災避難訓練等を行い、生徒が地域の防災訓練に参加するような土壌を作っていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップなどを活用して自分たちの住む地域の危険度を認識するようになったが、家庭でも防災について考える機会を持っただけ、地域と連携した活動ができるよう今後の課題としたい。 ・予告なしの訓練の実施などを通し、主体的に判断して行動できる訓練の実施を目指したい。

<p>(12) 学校保健</p> <p>コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、教職員や生徒の健康維持に向けた取組にも工夫・改善が必要になっていると思う。保健便りや委員会活動等を通して今後も学校全体の健康意識の高揚に尽力していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期中も一部のクラスや部でコロナやインフルエンザが流行してしまった。感染症は、自分だけのことではないということを再確認させ、休み時間の教室の換気や各自のマスクの着用や手洗いなど、感染予防策の徹底を促していきたい。
<p>(13) 学校行政事務</p> <p>物価の上昇が続いている中、限られた予算で学校行政事務の充実を図る事は困難であると思うが、今後も創意工夫を凝らして効率的な施設設備の整備改善に尽力していただきたい。</p> <p>厳しい予算の中、大変ですが優先順位、必要性等考慮しながら、適正に実施して頂きたいと思えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、管理室等の空調整備を予定しており、生徒だけではなく教職員の職場環境の改善を行う予定である。 ・物価高騰により全ての環境を改善することは不可能であるが、今後も適切な執行に努めたい。
<p>(14) その他</p> <p>先生方は、時間のかかる生徒指導や教育相談も含めて、大変多忙な日々をお過ごしと思いますが、校務支援システム等を最大限活用して、残業抑制に努めていただきたいと思えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選、優先順位に応じた分担を更に進め、業務の偏りが可能な限り解消されるよう工夫を重ねていきたい。 ・校務支援システムやグループウェアを活用するとともに、業務のDX化への対応を十分に行い、その活用によって少しでも業務改善につなげていきたい。